

都議会にはもっと女性の議席が必要です

東京・生活者ネットワークは都議会議員補欠選挙に向けて ドウマンジュ恭子を擁立

東京・生活者ネットワークは、2020年7月5日投開票の東京都議会議員補欠選挙 北多摩第3選挙区[調布市・狛江市]に向けて、元調布市議会議員で新人の、ドウマンジュ恭子の擁立を決定しました。

**市民の参加で都政を変える 子どもが真ん中！
東京からジェンダー平等を達成する**

◆ドウマンジュ恭子 プロフィール

1957年 北海道函館市生まれ/1975年 北海道立函館西高等学校卒業/1988年 結婚を機に上京/1991年 狛江市に転居/1993年~1995年 狛江市公民館講座「女の暮らしと教育」から自主グループ 立ち上げへ、これを機に公民館活動に関わる/1995年 調布市に転居。食の安全、調布市の良好な環境保全を求めて、生活クラブ生活協同組合で活動を本格化/1997年~2007年 共に投資し共に働く企業組合「ワーカーズ・コレクティブ クイーンズ」に参加/ 調布市立染地小学校 PTA 役員・特別委員、調布市立第三中学校 PTA 役員/2007年~2015年 調布市議会議員/東京・生活者ネットワーク政策委員/子育てネット konokono、若者の再出発を支えるネット、野川流域連絡会で活動/ 整体師、健康管理士
<http://doumenge.seikatsusha.me/>



狛江市での社会教育との出会いから市民の政治へ ドウマンジュ恭子

狛江に引っ越した27年前、若い母親だった私は友人を作りたくて、狛江市公民館事業の「女の暮らしと教育」という講座に参加しました。女性として育つ過程や育児・家事の中で自分の問題と感じたことは、実は社会的に強いられてきた、女性全体が抱える問題だという講座の視点は新鮮でした。この講座から立ち上がったグループの活動は15年以上も続き、日々の暮らしの中での課題について話し合いながら、自分の本当の気持ちに気づき、言葉を介して、相手も自分も大切にしていっていき実践の場になりました。

その後、調布市に転居し、生活協同組合の食材を使ったお弁当の宅配と、狛江市からの委託でありとびあセンターで障がい者や高齢者の昼食づくりをしているワーカーズ・コレクティブ（共に投資し共に働く）に参加し働きました。

子どもたちの通う小規模校染地小学校の統合問題では、保護者と先生とで「子どもたちにとっての最善の教育」について話し合うことができ、結果、統合を回避できた経験はその後の人生の選択にも影響を与えてくれました。

”子育てネット konokono”という、市内小中学校の保護者や先生たちで作るグループにも参加し、現在も続いています。家庭の事情から高校進学を断念したり、高校中退後に困難な人生を歩む若者たちが、やり直したいと思った時に支援できる地域（まち）にしたいねと、実際に支援を行っている方を講師に学習をしたり、話し合ってきました。

そんな私を見て声をかけてくれたのが生活者ネットワークでした。普通に生活している市民が中心にいる政治に変えていこうという生活者ネットワークの理念に共感したこと、それまでの活動とつながっているのではと思えたことから、調布市議会議員にチャレンジし、皆さんに送り出していただいて2期8年務めることができました。



都議会にて
狛江市議会議員
まつぎき淑子と
ドウマンジュ恭子

その間、「こんな地域（まち）にしたいね」の想いに共感の輪が広がり、”若者の再出発を支えるネット”が立ち上がり、市内養護施設の子どもたちへの学習支援や、若者の学び直しを後押しする基金集め、市内外の子ども・若者支援の市民団体や市職員との交流を目的としたサポーターズパーティーの開催などにも関わってきました。調布市も、2017年から子ども・若者総合支援事業（ここあ）を開設し、相談や居場所、学習支援を行うようになりました。

このように私の中では、狛江に住んでいた時に人との関わりを通して育っていく社会教育に出会ったことが、たとえ困難なことが起きても、支え合って安心して暮らしていける地域を作るための政治とつながっています。政治に偏見を持って離れてしまうと、政治を利用して権力を持つとするとする人たちの道具にされてしまいます。権力に興味はありません。

普通に暮らす市民の手に政治を取り戻すために、頑張ります！！

インフォメーション

●憲法学習会「檻の中のライオン」

講師：椋 大樹(はんどうたいき)さん(弁護士)
日時：5月23日(土)15:00~17:30、会場：ノタリーノ(OXエコルマ1ビル)
参加費：500円、主催：狛江・生活者ネットワーク

●エネルギーシフトを実現するこまへの会 親子工作と環境のお話

日時：6月7日(日) 会場：こまエコまつり、防災センター13:00~16:00
講師：一般社団法人えねこや 代表理事 湯浅剛さん

◆まつぎき淑子の一般質問

■都市計画道路の見直しや整備には積極的な地域の声の聞き取りを

都市の拡大を前提に50年前に計画された都市計画道路。社会の変化に伴い、整備の必要性が変化する路線もあり、一定期間で見直しをしています。現在の優先整備路線は都施工の水道道路及び3・4・4、市施工の電力中央研究所から喜多見七差路・世田谷通り・水道道路に至る3・4・16の3路線です。この他に8路線あります。

今後計画の見直しに際しては、市民への情報提供やオープンハウスでの対話による市民意見聴取など参加の手法を工夫し、必要性の有無や整備方針などをしっかりと話し合うよう要望しました。

■子育ての課題に向き合う姿勢

①幼児教育の無償化により低所得世帯の負担が以前より大きくなるという調査、対応を求めました。また、無償化による市の負担軽減分5100万円余は待機児解消や保育士確保など、子どもの施策に活用することを確認、要望しました。

②児童生徒が持っている力を伸ばすために、その子に合った教育の在り方や環境を保護者や関係者、理解者とともに考え、より適した就学先を相談・協議する場が就学相談です。

特別支援教育に関しては、年度初めなどに保護者にわかりやすく広報・周知を行い、垣根を低くし安心して相談できる体制を整えるよう求めました。